

目の前が開けた 「交通権」と言う言葉

名古屋市、岐阜市、木曽町の話も良かつた

沢山話してくれた可児先生のシンポ

市民に役立つ交通網を創ろうと8月24日に、さつきプラザで交通学者の可児紀夫・愛知大学講師を招いて「シンポジウム」を行い、ほぼ100人の方が参加しました。可児先生は、かつて岐阜市の交通問題に職員として携わり、市民のためのバス路線を作り上げてきた方です。また、近年あちこちで広がった市民の交通や、コミュニティーバスについても意見を反映してきた方でした。

その中で、市民の「交通権」という基本的人権について話され、憲法に保障されている移動の自由や、幸福追求の権利などから、生活に欠かせない権利と話されました。そして、今日の地方自治体では、住民自らの必要から、交通機関をどのようにしてほしいかを求めるることは当然の権利と話されました。

「交通会議」にはかる必要がなく、鈴鹿市内を、必要なところへどこへでも何回でも走らせることが出来て、市民の望むところへ、かゆいところに手の届く小型バスを走らせることが出来ます。★バスを無料にすることで、一日に何回利用しても、市民の懐は痛みません。回数が増えるほど好きなところへ行けて、好きなものを買うことや見ることが出来ます。お年寄りはお金の心配なく出歩けて、多くの人と話が出来て、ぼけないネと言われるようになるでしょう。★私たちは、利用する人も負担するという提案をしていますが、1年間で2千円から3千円で、何回でも利用できるなら、それくらいは負担しても苦にならないのではないかでしょうか。年金の少ない方も我慢できる利用の権利を、「利用券」として受け取って使えば、広い鈴鹿市も狭く感じるようになるのではないでしょうか。鈴鹿市民の希望を、市長さんに伝えましょう。（辻井良和）

これから運動は、末松市長さんにこの事を丸ごと理解して頂くことと、鈴鹿市議会の議員の皆さんに賛同して頂くことに運動の重点を置きます。来年4月は市長さんも市議さんも選挙ですが、この無料バスについてどの様にお考えか一人一人おたずねしたいと思っています。

今まで市民アンケートを沢山頂き、これらの意見はすでにお知らせしていますので、皆さんに親しくされている市議の方に、是非どうされるのかをおたずね頂いて、多くの方に賛成して頂きたいと願っています。「鈴鹿のことは鈴鹿市民が決める」ことをご理解下さい。



さつきプラザで「生活交通を考えるシンポジウム」開催

★先日のシンポジウムで、なぜ無料バスがいいのかについて、幾つかの理由を話しました。その中で、公共交通について鈴鹿市が方針を決めるとき、たとえ100円でも「有料バス」なら、鈴鹿市の「交通会議」にはからなければならないことが、道路運送法という法律に決められていると話しました。★「交通会議」には、三重交通や近鉄などの交通企業が必ず参加し、有料バス路線を作るとき、現在のバス路線やバス料金のもうけが減るようなことは賛成しません。賛成するのは、「有料バス」の新路線を、全部交通企業に任せて、赤字は全部鈴鹿市が負担するという条件が満たされたときだけです。★そんなことをすれば、鈴鹿市の負担は本当に多くなり、沢山の税金をこれに注ぎ込むことになります。先日見学した岐阜県の関市では、「公共交通」を行き渡らせて、一般財政の1%近くを関市が負担していました。（鈴鹿市に

発車オーライ

★先日のシンポジウムで、なぜ無料バスがいいのかについて、幾つかの理由を話しました

生活交通を考えるシンポジウム

感想文の一部を紹介します。

・ 12年前に本市に越してきてびっくりした事の一つとして各戸が2~3台のマイカーを所有している事。公共交通の未発達がこの理由によるものかと考えます。車両用道路の整備は完璧なまでに出来ている反面、歩道の未整備の多さにガクゼン。イオンモールへ買物に出かける際、電車賃片道150円+コミバス200円で1回700円かかります。10日間で7000円となり年金生活者としては大きな負担です。本田技研は鈴鹿市の財政をうるおしている故、マイカー奨励を止めないと思います。今回の生活交通の問題、夢でなく是非実現させたいものです。

- ・今日の可児先生の話は、市長や市役所の担当者に聞いてほしかったと思います。辻井会長の方針には賛成です。会員の皆さん一致協力してできるだけ早くに我々の要望が実現すること行政に推し進めたい。今の状況では「車の町」鈴鹿市ではない。市長はもっと老人を大切にすることを希望します。

- ・現在車運転しているので不便なしですが、今後のことを考えるとこのシステムに大賛成です。

- ・地方の政策をしっかりと勉強し、住民参加、利用者参加で意見を述べて総ての人々が幸せな生活が送れるよう日々の生活にメリハリある人生を送れるよう、生活の足を確保する事の大切さ、尊さを切に感じました。鈴鹿市の独自のオンデマンドバスを早期に実現して欲しい。皆で頑張りましょう。

- ・辻井さんの提案はわかりやすかった。可児先生の講演は理論的ではあったが、一般市民にはむづかしかった。行政の人にはしっかり聞いてほしいことはあるが、、、。可児さんは辻井提案をどう思っているのかな？ききたかったな。

・自分は今車に乗っているのすぐに必要ではないが、もう少ししたら車を手放す時がるのでその時には無料バスに乗りたいと思います。

- ・可児先生の話で頭の中の整理が出来ました。「交通権」という考え方をしっかり広めて実現に向けて頑張りたいと思います。

- ・本日の可児先生の講演会を市長に聞かせたかった。
一部のコミバス利用者のみ税金を使って不公平だと
思います。



末松市長、次期4年間で小児救急医療体制とお年寄りの足となる公共交通サービスを。

中日新聞9/19三重版



赤松则子市長

市民負託応えたい

芳美議員（立民山葉議）の発言をもとに、市長は「一般質問に立ちました」と述べた。

答弁では、教育・子育て支援、市営施設の運営、市立小学校の全通学改善策について、市営施設の整備など、子育て支援策を盛り込んだものとなっていました。

生の通院などにも力を貸す所で、少子高齢化社会を克服するため、医療体制の充実や、お年寄りの足手による公共交通サービスの維持を図るなど、次期市長として何が求められるかが、もう少し詳しく述べたところでした。

末松市長は謝辞を述べた後、「一〇一年の市議選で新人らの三つ巴とえらばれました。市長に、東海地方初の女性市長に。一五人は新人のうち、輪打式を経て再選となりました。次期市長選で他にどうぞ頑張らない。（片山健生）

すい街だと感じました。料金も地域内バスは無料、買い物・市街地病院循環バスは1乗車100円、デマンドバスも1乗車100円、デマンド乗合タクシーは、1乗車300円と安価です。

職員さんのお話の中で、市の負担額として、年間3億もの（関市は人口9万）一般予算が歳出されているというのには驚きました。

また、TV等の報道で高齢者の自家用車免許返納が話題になっている昨今、鈴鹿市でも、高齢者が外出しやすい街づくりが早期に実現できるような公共交通の計画と予算化がなされる必要を感じました。

(萩森 美知子)

関市の公共交通を視察して

5月16日、「コミバスをよくする会」の事務局で、岐阜県関市の都市計画課の職員の方に公共交通についてのお話を伺いに行きました。

関市は、地域内交通として、市の中心部には東西に長良川鉄道が走り、定時定路線型としての買い物物循環線、病院を巡る市街地病院循環線が運行されています。周辺部には、既に予約型デマンドバスが市の南東部3路線と北東部1路線が走り、デマンド乗合タクシーも走っています。関市は、交通網がよく張り巡らされ、市民、特に私たち高齢者が外出しやす